

都市経済常任委員会所管事項調査報告書

期 日	平成30年5月8日（火）～9日（水）
視察先	鹿児島県 鹿児島市
出席者	井上 敏夫 委員長、高橋 豊 副委員長、名切 文梨 委員、井上 武 委員、難波 達哉 委員、寺岡 まゆみ 委員、新井 啓司 委員
随行者	土井副主幹
調査項目	第3期鹿児島市観光未来戦略について
調査内容	<p>鹿児島市観光未来戦略は、上位計画である第5次鹿児島市総合計画の実現に向けた観光面における個別計画として策定されている。第3期の計画期間は平成29年度～平成33年度までの5か年間となっており、体系は、基本目標「鹿児島の経済成長のエンジンとなる稼ぐ観光の実現」のもと、3つの基本戦略（新しい魅力づくり、攻めの情報発信・誘客、受入体制）と基本戦略に基づく31の重点施策、3つの強化プロジェクト（稼ぐ力の強化プロジェクト、インバウンド対応の強化プロジェクト、広域連携の強化プロジェクト）により構成され、観光が鹿児島市経済を安定的に支える産業の一つとなることを目指している。</p> <p>入込観光客数及び宿泊観光客数の推移は、九州新幹線の開業や大河ドラマ「翔ぶが如く」、「篤姫」及び「西郷どん」の放映の効果が大きく、堅調に推移している。特に外国人宿泊観光客数は、平成28年は前年比36.9%増の26万7千人で過去最高となっている。</p> <p>今回の視察で特に目についたのが、鹿児島市観光の観光資源の豊富さと、他都市との広域連携（南九州の県都（熊本市・宮崎市）連携、世界遺産をはじめとするストーリー性のある那覇市・奄美市・屋久島町との広域連携、九州縦軸4市（北九州市、福岡市、熊本市）観光連携など）及び超広域連携（札幌市・松本市との超広域連携ビジット3）による戦略的な国内外へのプロモーションは、今後の本市の観光にも参考になるものであった。</p>
主な質疑	<p>Q 超広域連携（超広域観光ビジット3）の内容は、国内、国外向けのどちらが対象か。</p> <p>A インバウンド誘致の国外向けである。それぞれの都市（北都・中都・南都）の特色を生かし、オールジャパンでの集客を目指している。</p> <p>Q 観光に関する課題は何か。</p> <p>A 国内市場の縮小への対応。急増する外国人観光客への対応（外国人目線での観光案内、2次交通、防災対策等）。広域的視点による取り組み（他都市との連携による海外へのプロモーションの強化）などがある。</p>